テメキュラ市訪問記

７月２６日～８月６日までの日程で、大山町姉妹都市アメリカのテメキュラ市を中学生７人が訪問しました。交流事業の感想文の一部を紹介します。

中山中　3年　奥田　雅隆

テメキュラ研修を通して一番印象的だったのは、テメキュラ市役所です。テメキュラ市の市役所には２００人くらいの人が働いていて、その中には警察や消防の人、ポスター等を作ったり印刷したりする人、テメキュラ市の信号を管理する人なども含まれていることが分かりました。また、テメキュラ市の政治の仕組みも学べました。驚いたのは、市長は1年ごとに変わるという制度です。テメキュラ市には5人の議員がいるのですが、市長はその5人の中から1年ごとに選出されます。２年連続して市長はできないそうです。

僕は特にテメキュラ市役所で働いている人達がすばらしいと感じました。そこで働いている人たちはテメキュラ市をより良くしていこうという意識を持ち、低い賃金でボランティアのように働いています。また、定例議会では事前に質問などを聞くことはありません。初めて聞く質問に対して職員はその場できちんと答えることができるそうです。市役所で働いている職員さんが強い意思を持って働いていることがよく分かりましたし、テメキュラ市がすばらしい街になっている秘密だと思いました。僕も意思を持って行動したいです。

中山中　3年　田中　遥奈

私は、食文化の違いに驚きました。まず朝食は家族で揃って食べる習慣はなく、シリアルなどを自分たちで用意して食べていました。家族それぞれが自分のペースで好きなときに好きなものを食べるという感じでした。ファーストフードを何回か食べる機会がありましたが、どの食べ物もとても大きくてボリュームがありました。特に野球観戦のときのホットドックは食べきれないほどの大きさでしたが、想像以上に美味しいものを食べることができました。一番驚いたのは、残った食べ物をかまわず捨てているということです。日本では、出されたものは残さず食べなさいという考えで、我慢してでも食べたりする人が多いと思います。考え方の違いなのかなと思いましたが、もっと適量にして、ゴミを減らす工夫はできないのかなあと感じました。

一方で、食事の前後には、「ありがとう」という言葉をよく聞きました。日本でも「ありがとう」は言うけれど、そんなに頻繁には言いません。アメリカの人は普通に「ありがとう」が出てくるので、お互いを思いやる習慣が身についているなあと思いました。私も夕食後などにホストファミリーへ感謝の気持ちを込めて「ありがとう」を言うことができました。

▲テメキュラカンファレンスセンターにて

中山中　3年　野口萌乃香

ジェイコブズ・ハウスは、家族が病気になったり事故でケガをしたりして病院に入院することになった時に、その家族が無償で利用できる宿泊施設です。施設の中の家具を含めた生活用品はそのほとんどが寄付によるものだと聞きました。宿泊施設ですから、普通なら料金をとることも考えると思いますが、「このような取り組みは商売として考えてはいけない」という強い思いを聞くことができました。私もその通りだなと思います。また、子どもを亡くした女性の話を聞くこともできました。「人生何があるか分からないから、一日一日を大切に生きていかないといけない」というメッセージをもらいました。私にとって大切に生きるとは何か分かりませんが、今まで出来ていなかったことを少しずつ直していこうと心に決めました。テメキュラの人達の優しさから生まれたこの施設は、多くの人達の共感を呼び、未来に向かって生きる希望を与えてくれる施設だと思いました。

中山中　3年　林原　旺

テメキュラ市の人に日本の文化である、折り紙と習字を教えてあげる機会がありました。外国人にとって筆を使って漢字を書くことは非常に難しいと思っていたので、どうやって説明すれば良いのか悩みました。